

# 地域づくり推進基本方針2024改定版におけるプラットフォーム

資料1

## 1.地域づくりの3原則

### 第1 自発の原則

地域づくりの取り組みが、地域づくりに関わる住民などステークホルダーの自発的な動機に基づくものであること

### 第2 自前の原則

ヒト・モノ・カネ・情報といった地域資源について、まず自前のものを、掘り出し、磨きをかけ、活用すること

### 第3 自在の原則

自発・自前＝内発を前提としたうえで、あえて外発的な要素を加味し、内発的な要素だけでは十分ではない、あるいはそれ以上の効果が期待されると判断されたとき、真に必要であれば躊躇わず地域外資源を活用すること

## 2.プラットフォーム（PF）の5つの要素（大切なこと）

### ①「やりたい・やってみよう！」の想いから始まる【自発】

「やりたい・やってみよう！」という自発的な想いから始まり、個人や団体を誘い込みながら共感を広げていく

### ②出入りが自由でオープンな場【自前・自在】

多くの人や、行政を含む地域の団体等がゆるやかにつながり、デジタル技術を活用して参加できる機会を増やすなど、出入りが自由で負担感が少ないオープンな場とし、地域の新たなつながりが生まれていく

### ③「こんなことならできるよ！」を持ち寄る【自前】

参加者全員がフラットな関係で楽しく参加する中で、既に行っている地域活動や、参加者の「得意」を持ち寄り、話し合いながら、活動の変化や発展を楽しむ

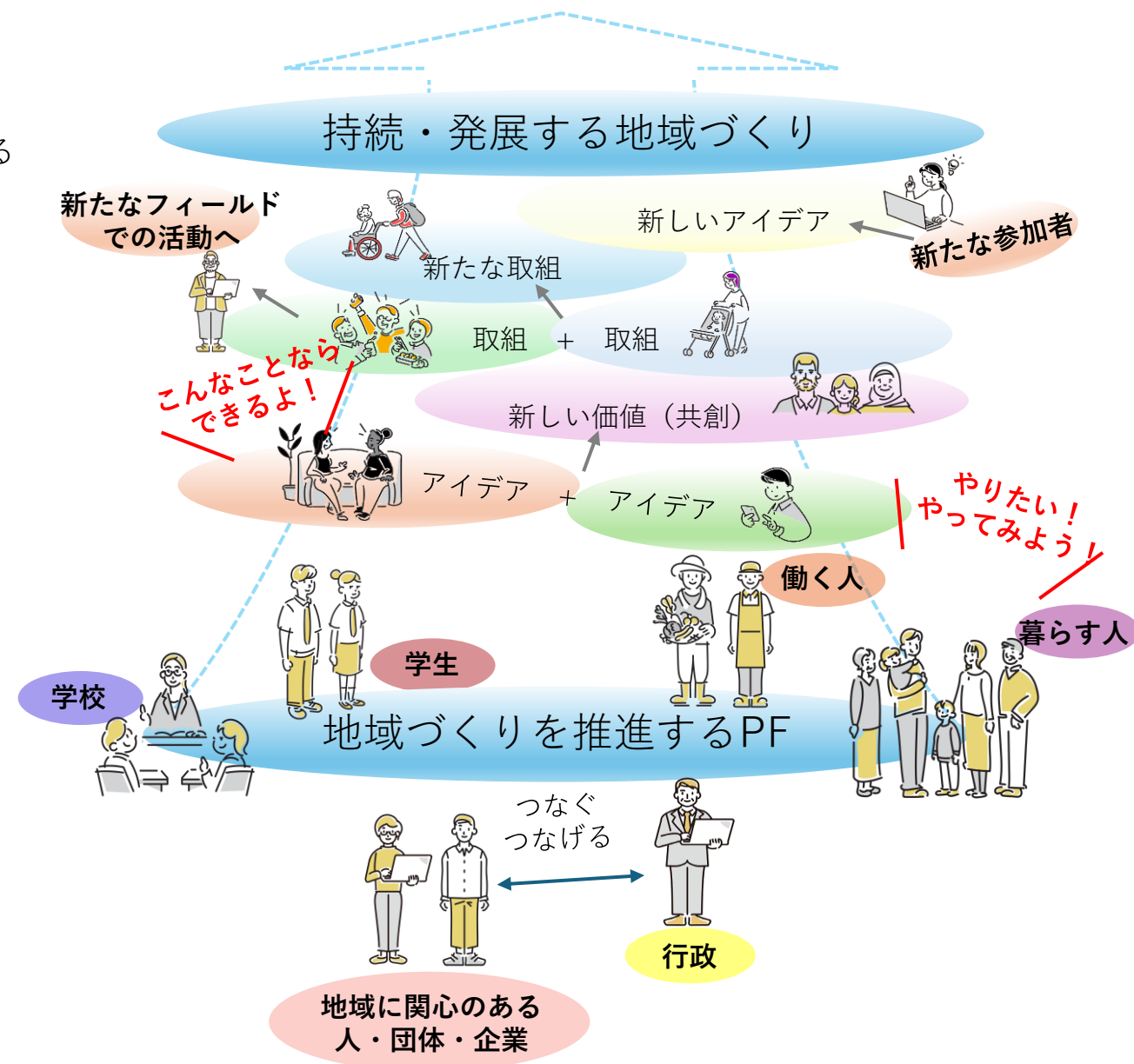
### ④無理なく、楽しく、つながり、続いていく【自発・自前】

参加者が主体的に話し合い、情報の共有、つながりづくりを進めることで、無理なく楽しく、躍動感のある活動が続いていく。

### ⑤地域の実情、ペースに合わせて【自発・自前・自在】

PFの発足方法、組織体制、活動内容等を全市一律に決めるものではなく、PFの参加者が地域のことを“我がこと”として考えながら、地域の実情、ペースに合わせて進めていくことで将来的な地域の担い手の養成にもつながる場とする

ゆるやかなつながりを大切に  
地域をもっと好きになる！



# 地域づくり推進基本方針2024改定版におけるプラットフォーム

## 3.既存中学校区における地域づくり推進会議の方向性

「プラットフォームの5つの要素」を踏まえ、全市展開を見据えた検証を行いながら、令和8年度末までに新たなプラットフォームへの転換を目指します。

### 【現状】

市が推進会議の設置・運営だけでなく、活動組織との連携や支援、共創による地域の課題解決・魅力向上を図る。

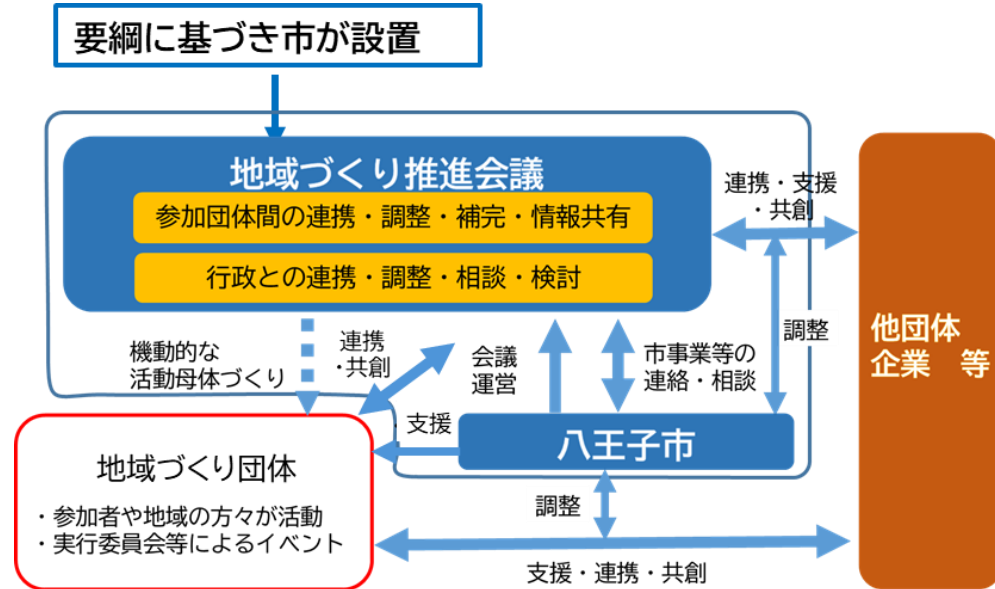
### 【令和7年度以降】

「やりたい・やってみよう！」という想いのある個人や団体によりプラットフォームを設置・運営。様々なステークホルダーと連携・共創し地域の課題解決・魅力向上を図っていく。

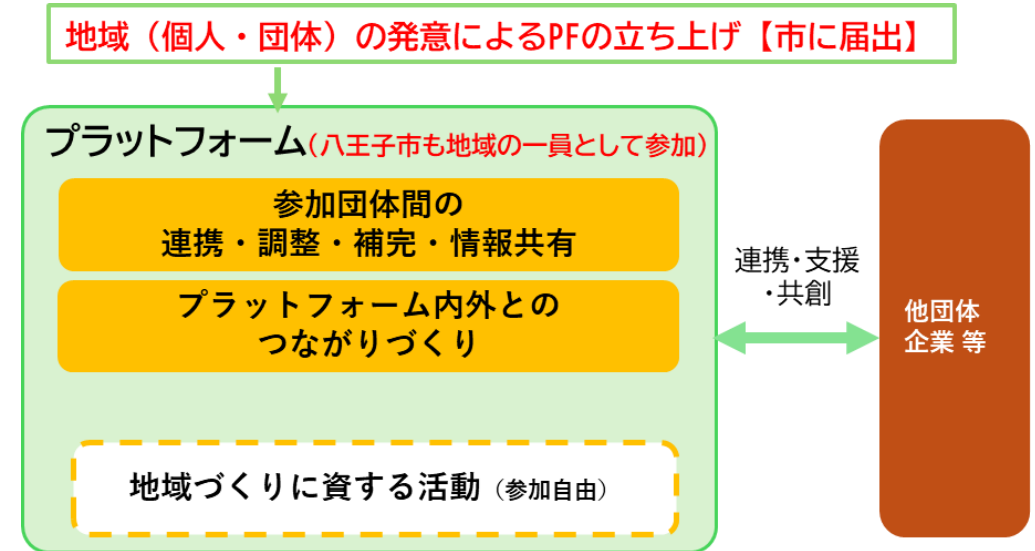


# 現在の形と、新しい「プラットフォーム」は何が違う？

## 〈現在の形〉



## 〈プラットフォーム〉



	推進会議		長房の未来をつくる会	
	市	地域	市	地域
設置主体	○	—	—	○
企画・運営 (活動)	企画	◎	○	○
	資料作成	○	—	○
	当日進行	○	—	○
	議事録作成	○	—	○
できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有</li> <li>地域課題等について議論</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>推進会議の議論に基づく活動</li> </ul>	

令和7～8年度の間で徐々に変えていく



	プラットフォーム	
	市	地域
設置主体	—	○
企画・運営 (活動)	企画	○
	資料作成	○
	当日進行	○
	議事録作成	○
できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有</li> <li>地域課題等について議論</li> <li>地域のための活動</li> </ul>	

## 次第5 今後の活動について(役員会での議論の共有)につづく...

